

## 《講座紹介》

## 日本政治思想史

後 藤 総一郎

わたしは、学問をつねに現代科学として位置づけているため、講座の年間テーマも、1, 2年おきにかえて学生と向きあおうとしている。ちなみに最近の中心テーマを掲げると、「幕末思想史」「明治末期の地方理念」「天皇制ファシズム思想史」などである。

そしてその講座の展開を、まず第一部として「思想史の歴史と方法」について述べ、次いで「日本における政治思想史の研究史」についてスケッチし、そして第二部として本論であるその年のテーマについて講義を展開することとしている。

その場合における「思想史の方法」として、わたしはおよそ三つの視角からの歴史把握を通して、トータルなその時代における政治思想の核を捉えようとしている。その一つとは支配者の思想であり、その思想形式史についてであり、第二は、中間層ともいえるいわゆる知識人の思想とそのダイナミズムについて分析し、そして第三に、被支配層といわれてきた民衆のとくに民俗的エートスの分析を視野に収めながら、日本政治思想の構造的認識を透明なものに出来うればと願って講述している。